



寒い冬空に1日50tのゴミ処理 でも追いつかぬゴミの多いまち・留萌

はなやかな舞台のかけに裏方と呼ばれる人々があるように、都会の生活には、清掃事業という影の力があります。

とくに留萌市の場合、一日のゴミの発生量は札幌市よりも多く、全道各市に比べても、上位の方にあるというだけに、この清掃事業にも大きな悩みがあります。

いま、留萌市内で発生するゴミの量は、市街地を中心とする清掃地区だけでも一日約六十トン以上にもものぼるとみられています。冬期の積雪、それに人手不足などで、思うように進まないといえ、一日約五十トンほどの処理をしています。それでも、市民のみなさまからのゴミを早く処理して、という苦情に対しても、積雪による処理能力の低下、人手不足による処理能力の限界などで十分にご要望にこたえられないのが現状です。

現在、自動車四台、馬車四台が、それぞれゴミとアクの処理にわかれて、二十一名の作業員とともに、次のような処理をしています。

△毎日「駅前」神社下「十字街」大町の大通りと、十字街「留萌支庁の道路ぞい」の地区

△三日に一度「十字街」明元町伊藤船具店までの道路ぞいの地区
△一週間に一度「以上」の地区を除いた市街地
△十日に一度「大町、沖見町、見晴町」
△一月に一度「元町の一部、春日町団地、南町」

このように計画をたて、三月まで行われますが、少ない財政の中から清掃事業のみに多額の予算をさいて自動車も十分必要なだけ購入することも出来ない現状です。もしかりに、自動車を必要だけ購入したとしてもゴミは出せ出せと成りなつては、また同じような姿になることは明らかです。しかし、市の清掃事業は、いまの持つてくる力を十分に發揮して、少しでも多くのゴミを処理したいと、努力していることだけは、ご理解していただきたいと思ひます。

約五十トンものゴミといいますが、悪臭鼻をつくゴミ、もうもうと立つホコリに、つままれてのアクを、一日五十トンも「理する」ということは、みなさまのご家庭ごと冬に準備する石炭と比べたら、どの位多いものかご想像がつかうかと思ひます。

寒い朝八時から作業をはじめ、手かじかむのをがまんして、ときには、大きなゴミ箱の中に入つてゴミを集め、車の上ではゴミに埋まりながらの仕事は、とかく社会生活の中で忘れられがちなこととはいへ、その役割の大きさははかり知れないものがあります。

札幌市のように重量によつて清掃料金を徴収している所では、処理するゴミの量が少なくなつたとはいへません。

このように、わたしたちの生活でもまだ自己処理できるゴミが多くあります。自己処理できないものだけ出すようにすれば、処理率があがり、広い地域の処理が十分できるようになると思ひます。



科科科

ゴミ処理も、市民のご協力をお願いしなければならぬことが多い。清掃指導員は、処理がスムーズに保つていくように、処理車の行く前に指導やお願ひをして歩く。

ゴミ処理専用車のロードパツカーは、小型で衛生的な機能をフルに生かして、市内住宅街のゴミを処理してゆく。

フタを開けると、ゴミが大きな中に入れておくと臭い。箱と蓋を閉めると、臭いもこぼれず、ゴミも集まる。



「ホコリ高き男」上タダ、口に出さないほどの臭いも、なるホコリ、そんな中でもやはり処理をせねばならない。

一日の作業を終ると、車はもうすっかり汚れてしまふ。あすの朝早い作業に備え、ホットアイを入れる間もなく、車洗ひ、車の整備点検が待っている。



一日ゴミとあくをまわして約50t以上の処理で、ゴミ捨て物はゴミの山を作る。もうこの捨て場も一杯になり、そろそろ別の場所を見つけていかなければならないという。



冬のアク処理も大変な仕事です。ホコリを体いっぱいに浴びて車に積む。灰捨て箱の外に捨てられた灰は雪と一緒にたまって、それを割るツルハシ持つ手も朝の寒さについかじかむ。



人かげまばらな市内大通り商店街、まだよる戸を降した商店もある。そうした中を、凍りつく朝の寒風をついて、きょうも欠かざるゴミ処理車は街へ出て行く。